

ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

地域の交通について、町の実態に即した長期的で持続可能な確保維持にむけ、利用者・交通事業者・行政等関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化を検討及び環境配慮などが急務の課題となっている。

本事業により、ニセコ町デマンドバス運行実施し、移動弱者が増加している住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと本フィーダー系統との接続により、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物、来町者の交通手段として大きな役割を果たすものである。

地域公共交通の現況

- ・ JR函館本線（ニセコ駅、昆布駅）
- ・ ニセコバス（株）（町内2路線）
- ・ 道南バス（株）（町内1路線）
- ・ スクールバス（5路線）

生活交通確保維持改善計画の目標

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。目標13,800人
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。目標174,500円
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率を改善させる。目標7.00%

協議会開催状況

- 令和5年4月28日 第26回協議会を開催
（地域公共交通活性化協議会規約の改正等）
- 令和5年6月21日 第27回協議会を開催
（地域公共交通計画策定に向けた検討等）
- 令和5年9月22日 第28回協議会を開催
（営業区域外旅客運送の必要性について）
- 令和6年1月15日 第29回協議会を開催
（地域公共交通確保維持改善事業評価等）

令和5年度事業概要

- 運行系統名：ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデマンド型運行
- ・運賃1乗降200円
 - ・ドア・ツー・ドアサービスでの運行
 - ・午前8時から午後7時まで毎日運行（平日のみ、午前7時台に一部地域からの路線を運行）
 - ・車両及び台数 ワンボックスタイプ（10人乗り） 2台

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

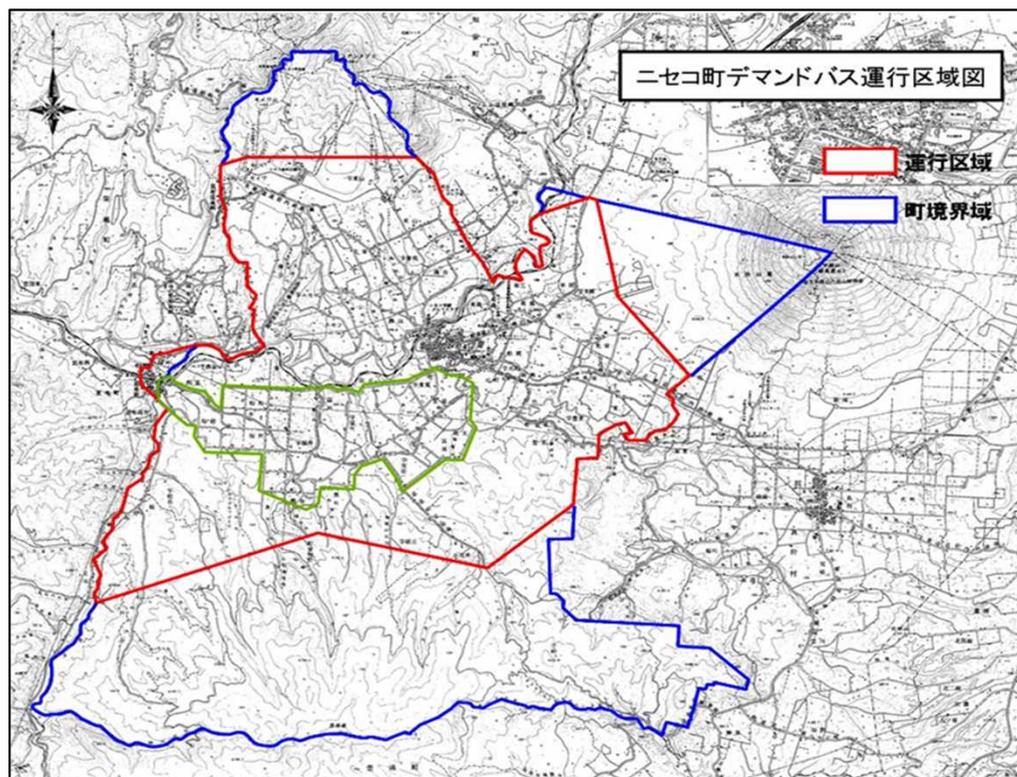
平成24年10月から従前の町内循環バスに代わる地域公共機関として、デマンドバス(にこっとBUS)を運行している。

- ・予約電話が繋がらないことに対応するため、話中を改善するガイダンス案内を継続。
- ・利用需要の増や時間集中に対応するため、予約時に乗合運行が増加できるように引き続き配慮。
- ・冬期間のスキー利用などによる混雑緩和のため、市街地とスキー場を結ぶスキーバスを定時運行。
- ・コロナ禍以後はビニールの仕切りや消毒など感染防止対策を実施。

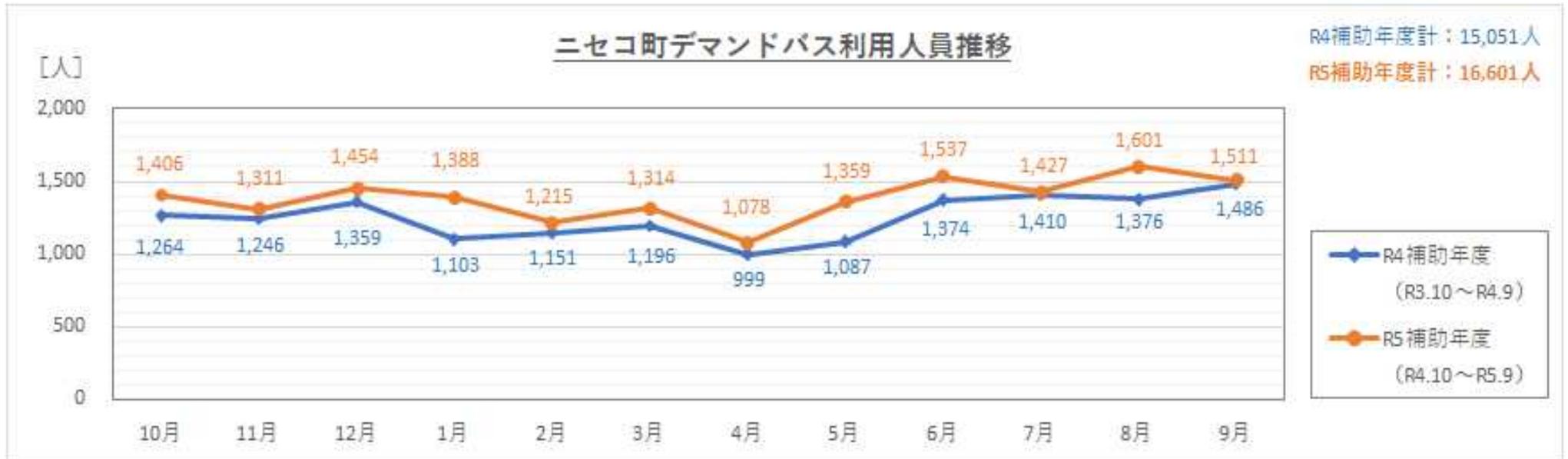
2) 運行系統

【運行系統】

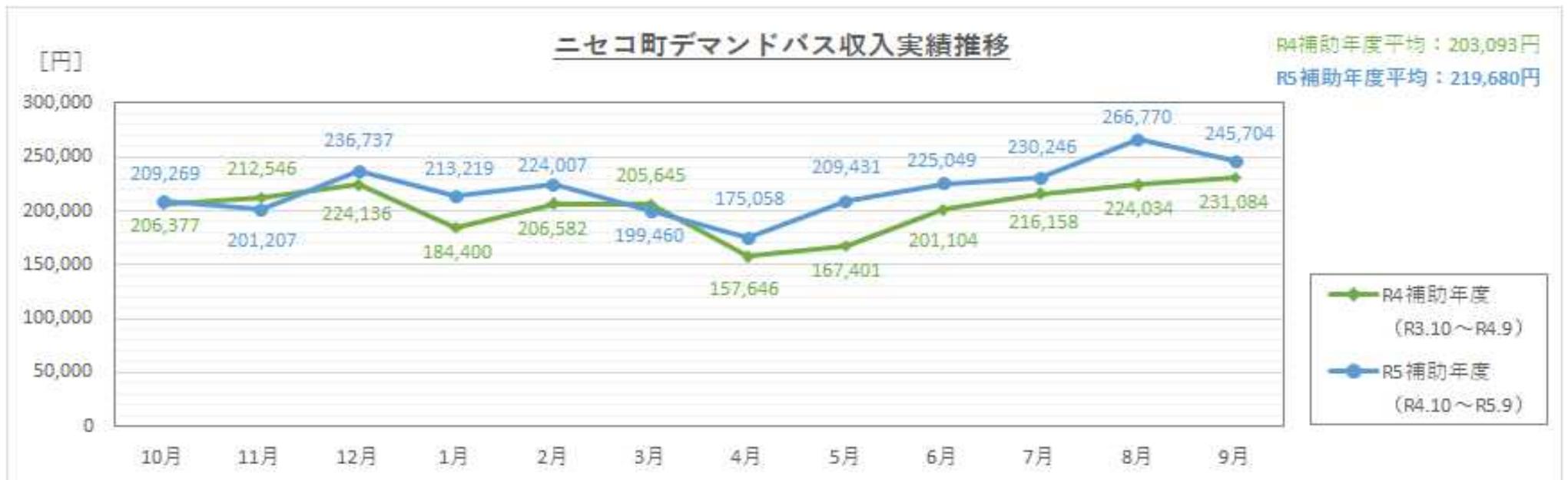
ニセコ町全域を区域としている。
※運行区域図は右図のとおり



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画どおり運行し、事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

令和5年度バス利用者目標数13,800人に対して、16,601人。月平均運賃収入は目標174,500円／月に対して、219,680円／月、収支比率は、目標7.00%に対して、10.05%となっています。

7) 事業の今後の改善点

車両数は運行当初からの2台体制を維持しているが、特に冬季間の乗車希望に対し、所要時間の増等の影響もあり十分応えきれていない状況。

予約時において、乗り合い運行を奨励する運用改善を引き続き進め、乗合率及び利用者数を高める取組みを進めるなど適宜改善を図るとともに、ニセコ町公共交通の最適化を図る。

現在、地方創生事業を活用し、町の交通課題と解決方法を見出すこととしている。その一環として、スキーバスを定時運行することで、デマンドバス利用にどのような影響がでるかを検証し、お断り件数や利用者の増加への影響について検証運行を継続している。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・目標はいずれも達成されており、現在作成中の地域公共交通計画に基づき、更なる利用促進の取組を期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、公共交通への公的資金投入額に関して目標を設定することもご検討いただきたい。